

ミッド・パシフィック小学校創立20周年：革新とコミュニティの遺産

今年は、ミッド・パシフィック小学校の創立20周年を迎え、成長、革新、そして揺るぎないコミュニティの支援の道における重要な節目となります。ミッド・パシフィック小学校の物語は、単なる教育の話にとどまらず、1930年代に小さな学校として開校したエピファニー学校の謙虚な始まりに根ざした変革の物語でもあります。

エピファニーからミッド・パシフィックへ：回復力の物語

エピファニー学校は、1930年代に幼稚園として創立され、年月を経て6年生まで拡大しました。しかし、1990年代後半には中学校の台頭により6年生の入学人数が減少し、財政的な困難を招くこととなりました。エドナ・ハッセー博士の指導のもと、学校の理事会とコミュニティは、学生たちの未来を確保するための解決策を見つける決意を固めました。

転機となったのは、2002年にハワイ州の独立学校協会(HAIS)の学校長会議での出来事でした。その場で、ハッセー博士は当時ミッド・パシフィックの学長であったジョー・ライス氏と話を予定でした。この会話が、エピファニー学校の未来を再定義するパートナーシップへと発展しました。2004年から2005年にかけて、地域社会の支援を受けて、6年生の生徒たちはミッド・パシフィック中学校に進学し、幼稚園から5年生の生徒たちはミッド・パシフィックに加わり、ミッド・パシフィック小学校の誕生を迎えました。そして翌年には、プリスクールが設立されました。

カリキュラムの革新を受け入れる

ミッド・パシフィック小学校とプリスクールの特徴は、レτζョ・エミリア・アプローチを教育に取り入れていることです。イタリアのレτζョ・エミリアを訪れた2人の教師が、発展的なカリキュラムを実践しているのを見てインスピレーションを受けたミッド・パシフィックは、この理念を探求型学習モデルに組み込みました。このアプローチの根底にあるのは、「子どもは自分の学びの道を切り開く力を持つ存在である」というイメージであり、好奇心や批判的思考、深い理解を育むことを目指しています。

「ミッド・パシフィック小学校では、社会科や科学のカリキュラムは子どもたちの質問や興味から作られています」とハッセー博士は語ります。「生徒たちの問いかけが授業を導き、子ども一人一人が主体的に学ぶダイナミックな学びの場が生まれます。」

この20年間、探求型学習モデルは進化し、教師たちはその効果に自信を持っています。州の基準に沿いながらも、このカリキュラムは生徒主導の探求と問題解決を重視し、学生たちを世界に通用する学び手として育てています。

人格とコミュニティの構築

学問だけでなく、ミッド・パシフィック小学校では創立当初から人格教育が中心に据えられており、自己、コミュニティ、世界に対する敬意、共感、責任といった価値観が大切にされています。学校のコミュニティイベントである「クプナ・デー(祖父母の日)」や「スプークティビティ」などは、家族や、学生、親、教師との絆を強めます。パンデミック時にも、バーチャルイベントを通じて世界中の人々が参加でき、コミュニティを繋げられました。

「私たちのコミュニティこそが最大の強みです」とハッシー博士は述べます。「保護者、スタッフ、卒業生からのサポートが、すべての祝賀行事を意義深いものにし、生徒たちが所属しているという実感を強めてくれます。」

次の20年に向けて:新たな展望

ミッド・パシフィック小学校が20周年を祝う中で、ハッシー博士は同校の未来と、将来を引っ張っていくことになる学生たちのことを思い描いています。重要なビジョンのひとつは、探求型学習と人格教育へのコミットメントをさらに深めることです。このビジョンには、ニューロダイバーシティな学習者への支援を強化することも含まれており、特別プログラムや教師の専門性向上のための研修が、クプ・ホウ・アカデミーや北米レッジョ・エミリア・アライアンスとの提携により実現しています。

2027年に開催される予定の「モザイク」展覧会では、レッジョ・エミリア・アプローチが紹介され、国際的な注目を集め、ミッド・パシフィックの革新的な教育のリーダーとしての地位をさらに強化することになるでしょう。

ハッシー博士はこう締めくくります。「私たちの旅はまだ終わりません。コミュニティの支援を受けて、ミッド・パシフィック小学校が次世代にわたって繁栄し続けることを確かなものにします。」

写真: エドナ博士と生徒たち

前列: Leo Hussey '34, Coco Salassa '37, Linnea Kaneko '37, and Anna Hasegawa '38

2列目: Nainoa Gregory '35, Olivia Williams '32, Luca Hussey '34, Dr. Edna Hussey, Gyasi Kihe '33, Ismail Ashraf '35, and Ryotaro Uda '32.